

第5次京都市男女共同参画計画策定に向けて

Q. これらは何の数字でしょう？

①夫の〇〇の時間

84分/日

ヒント：妻は、370分/日

②男性の〇〇の取得率

7.48%

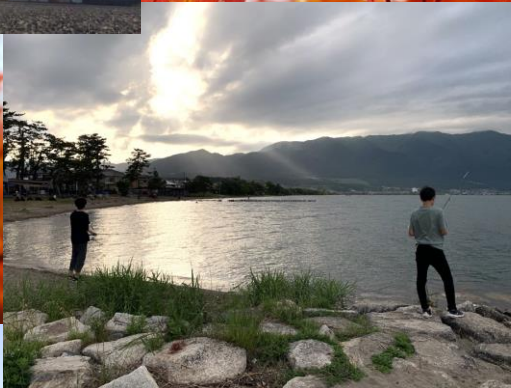
ヒント：女性は、83.0%

③〇〇の被害経験者

約**4**人に1人

ヒント：夫婦や恋人など親密な関係の中で起こるもの。

答えはこの中に・・・



※ 京都市「真のワーク・ライフ・バランス」実践写真募集キャンペーンに御応募いただいた写真を一部使用しています。

御意見 (パブリックコメント) 募集中!

「第5次京都市男女共同参画計画」の策定を行っています。

感想や質問、次期計画にふさわしいキャッチフレーズなど、どんな御意見でもOK!!



詳しくは二次元コード先のリンクを御覧ください。

Q.

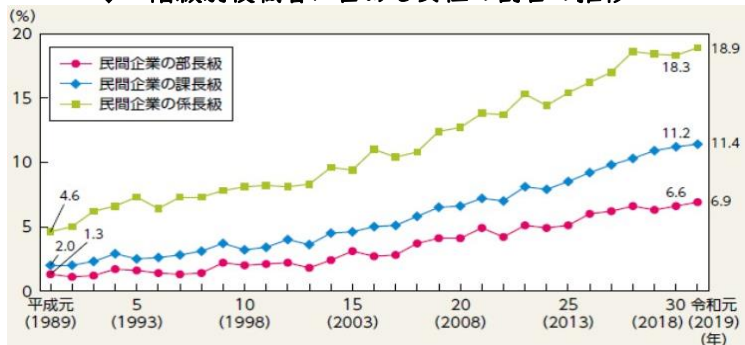
「女性活躍」は進んでいる・・・？

A.

結婚・出産のあとも働き続ける女性は増えていますが、正規雇用率は20代後半でピークとなり、その後下降し続けています。

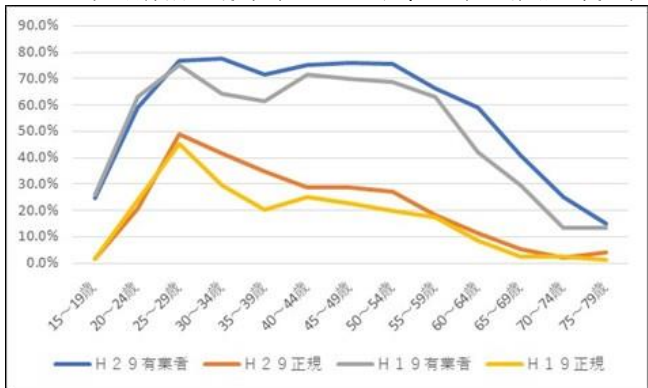
また、社会における意思決定の場に男女が共に参画することが重要ですが、女性の参画が遅れている分野もあります。

◆ 階級別役職者に占める女性の割合の推移



出典：内閣府 男女共同参画白書 令和2年版（厚労省「賃金構造基本統計調査」より）

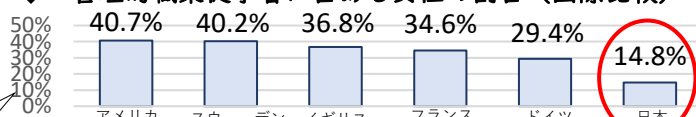
◆ 女性の年齢階級別有業率及び正規雇用率の推移（京都市）



総務省 就業構造基本調査（平成19年，平成29年）より作成

国際社会に目を向けると諸外国の推進スピードは速く、日本は遅れたものとなっています。

◆ 管理的職業従事者に占める女性の割合（国際比較）



出典：内閣府 第5次男女共同参画基本計画（説明資料）より作成
日本の値は、総務省「労働力調査」。
その他の国は、ILO/ILOSTAT（2020年11月時点）。いずれの国も2019年の値。

参考

京都市役所の女性管理職比率：18.9%（令和2年4月）→目標数値：25%（令和7年度）

Q.

家事・育児をする男の人は増えているよね？

A.

徐々に増えてきてはいますが、まだまだ男女の差があります。長時間労働の見直しや職場の理解，夫婦の話し合いなどが必要と言われています。

◆ 共働き世帯の家事・育児・介護時間と仕事等時間の推移（6歳未満の子を持つ夫婦の週全体平均）

妻は「家事・育児・介護」に、夫は「仕事」に多くの時間を使っている状況は変わっていません。



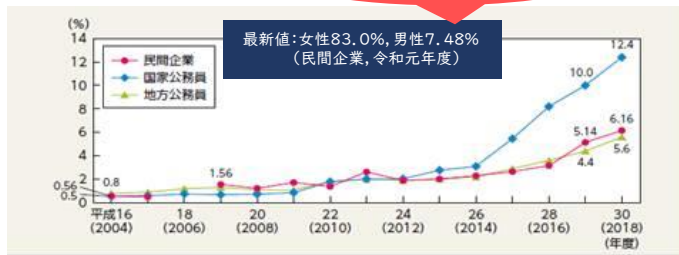
出典：内閣府 男女共同参画白書 令和2年版（概要）

回答①84分/日
夫の家事等の時間
※妻は約4.4倍の
370分/日

◆ 男性の育児休業取得率の推移（全国）

近年上昇していますが、女性と比較すると極めて低水準です。

回答②7.48%
男性の育休取得率



出典：内閣府 男女共同参画白書 令和2年版

◆ 育休を取得できなかった，またはしなかった理由 職場の環境が整っていないことが要因のひとつです。



出典：男女共同参画通信vol.50
（日本労働組合総連合会「男性の家事・育児参加に関する実態調査2019」より作成）

参考

京都市役所の男性職員の育休取得率：25.3%（令和元年度）→目標数値：30%（令和7年度）

Q.

「真のワーク・ライフ・バランス※」はどうやって実践するの？

A.

例えば・・・

- ・ 子どもの急な発熱などで、急きょ仕事を休むことも。日頃から仕事の情報をチームで共有し、カバーできるように努める。
- ・ 家事分担の見直しや、テイクアウト、家事支援サービスの利用など、工夫をして家事の時短に努め、趣味や健康づくり、休息の時間をつくる。
- ・ 自治会や自主防災会の活動に参加することで、ご近所とのつながりをつくる。 など

参考

働き方改革関連一括法

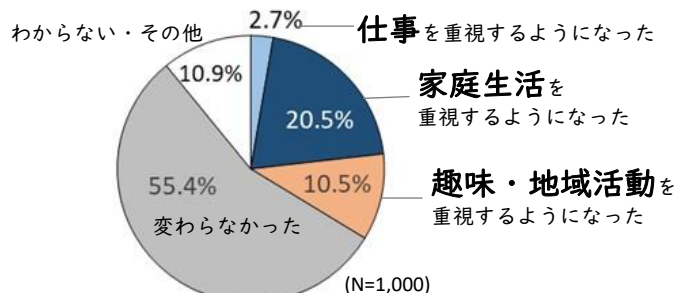
- ・ 多様な働き方の実現に向けて、時間外労働の上限規制、年次有給休暇の義務化など
- ・ 同一労働同一賃金など、雇用形態に関わらない公正な待遇の確保

新型コロナウイルス感染症により、失業や収入の減少、DV被害の深刻化など、社会に深刻な影響が生じており、特に女性への影響が大きいと指摘されています。このような状況の中、困難を抱える方への支援がこれまで以上に重要になっています。

一方で、テレワークや時差出勤など柔軟な働き方の進展や、暮らし方・価値観の変化が起こりつつあります。

これらは「真のワーク・ライフ・バランス」を実践するきっかけになる可能性があります。

◆ 新型コロナウイルス感染症拡大前と比べた意識の変化



京都市「真のワーク・ライフ・バランス」インターネット調査*1 (令和2年12月)より作成

※「真のワーク・ライフ・バランス」は、仕事と家庭生活の調だけでなく、地域活動や社会貢献活動等に積極的に参加することによって、心豊かな人生を送ることができるという、京都市独自の考え方です。

Q.

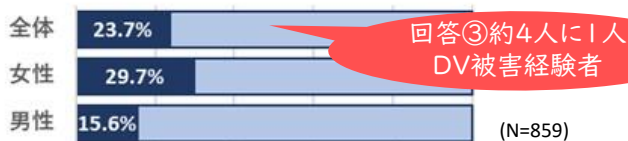
DV(ドメスティック・バイオレンス※)は他人事・・・？

A.

最新の調査では、約4人に1人がDV被害の経験があること、DVと気づかず長期間が経過していた人が多くいることが明らかになりました。DVは決して他人事ではなく、誰にとっても身近な問題です。

◆ DV被害経験の有無

被害経験のある人は23.7%(約4人に1人)となっています。



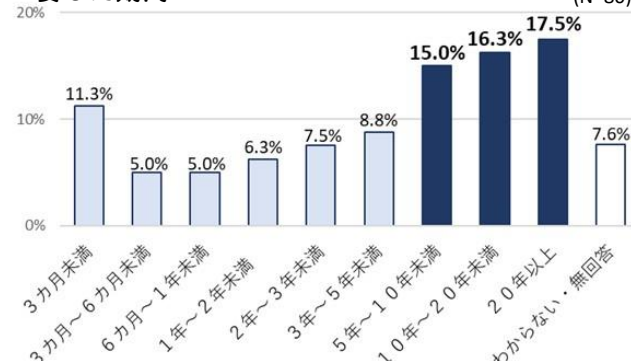
DV被害の内容は

- ・ 手をあげられたことがある
- ・ 何を言ってもしても、無視された
- ・ 実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止された
- ・ 金の使い道を細かくチェックされたり、生活費を渡されなかったりした
- ・ 避妊に協力してくれなかったり、中絶を強要された など・・・

「殴る」「蹴る」などの身体的な暴力だけがDVではありません。

京都市「男女共同参画に関するアンケート」*2 (令和元年度)より作成

◆ 被害にあってから「DV」だと気づくまでに要した期間



京都市「配偶者からの暴力に関するアンケート」*3 (令和元年度)より作成

DV被害者や周囲にいる人が、DVのことや相談窓口を知っていれば、早期の相談につながります。

京都市では、京都市DV相談支援センターを中核として、DV防止に取り組んでいます。

☎ 京都市DV相談支援センター：(075)874-4971 (月～土曜 9:00～17:15)
 ☎ 男性のためのDV電話相談：(075)277-1326 (第2第4火曜 19:00～20:30) とともに祝日・年末年始を除く

※ DV・・・夫婦や恋人など親密な関係の中で起こる暴力

Q.

「男女共同参画社会」って何だろう？

A.

市民ひとりひとりが、性別にかかわらず個人として尊重され、様々な分野でいきいきと活動することができる社会です。

次期京都市男女共同参画計画（案）では、本市が目指すべき3つの社会像を掲げています。

性別による格差がなく、誰もがあらゆる分野で活躍できる社会

あらゆる暴力が根絶され、誰もが安全・安心に暮らせる社会

誰もが人権を尊重され、また健康的に暮らせる社会

この社会像は、国連が定めたSDGsの理念である「誰ひとり取り残さない」社会、またあらゆる危機を乗り越えて将来にわたって人々がいきいきと暮らせる「レジリエンス※」の高い持続可能な社会の実現にもつながります。

※ レジリエンス

人口減少や少子高齢化のみならず、地域コミュニティの希薄化、地震や台風といった自然災害などの都市が抱える課題の中、「持続可能性」とともに、あらゆる危機に対応・克服できる能力を意味する「レジリエンス」がまちづくりのキーワードとなっています。

御意見（パブリックコメント）募集中！

現在、次期「京都市男女共同参画計画」（期間：令和3年度～令和7年度）を策定しています。

次期計画の策定に向け、皆様からの御意見を募集します。

感想や質問、次期計画にふさわしいキャッチフレーズなど、どんな御意見でもお待ちしております。

詳しくは二次元コード先のリンクをご覧ください。

○募集期間

令和3年4月19日（月）～令和3年5月24日（月）【必着】



パボコムくん



<本文中の注釈>

*1 市内在住の1,000人を対象としたインターネット調査

*2 市内在住の3,000人を対象に実施、有効回答数859人

*3 京都市DV相談支援センター利用者103人を対象に実施、有効回答数80人

